

平成31年度 伊丹小学校 学校経営方針（案）

学校教育目標 徳・知・体の調和のとれた心豊かなたくましい子の育成
～「よい子 強い子 伊丹の子」～

- 1 人間尊重の精神を培い、心豊かな生活実践に努める態度を養う。
- 2 基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決する能力を育む。
- 3 命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生き抜く力を培う。

めざす学校像 「誇りに思える学校」

- 1 子どもたちが毎日楽しく登校できる学校
- 2 保護者が、明日も通わせたい学校
- 3 地域が自慢できる学校
- 3 教職員が仕事にやりがいと誇りが持てる学校

めざす子ども像 「自分の夢の実現を目指す子」

- 1 心豊かな子
- 2 **最後までやり抜く子**
- 3 健康や安全に気をつけ、根気強く体力づくりに励む子

めざす教職員像 「熱意と指導力を持つ教師」

- 1 子どもに寄り添い、共感しながら子どもの力を高める教師
- 2 豊かな感性や情熱を持ち、自己研鑽していく教師
- 3 認め合い、高め合い、協働して取り組む教師集団

学校運営方針 ◎は、本年度の重点目標

- 1 「子どもたちが毎日楽しく登校できる学校」となるために
 - ◎（１）互いを認め合い、いじめを絶対許さない学校にする子ども。
 - ◎（２）**何事にもチャレンジし、最後までやり抜く子ども。**
 - （３）よく読み、よく聞き、深く考え、すすんで話し合う子ども。
 - ◎（４）**気持ちのよいあいさつやていねいな言葉で受け答えできる子ども。**
 - （５）明るく素直な気持ちで毎日を送ることができる子ども。
 - （６）友だちの良いところに気づき、それに学ぶ心をもてる子ども。
 - （７）ルールや約束を守って、安全な学校生活を送る子ども。
 - （８）体育や外遊びを通して、自ら体を鍛える子ども。
- 2 「保護者が、明日も通わせたい学校」となるために
 - ◎（１）**安心・安全に学習できる環境の整備・充実を図る学校**
 - （２）豊かな人間性や規範意識を子どもに身につけさせる学校。
 - ◎（３）確かな学力を子どもに身につけさせる学校。
 - （４）明るく熱意を持ち、人間力の高い教職員集団。
 - （５）子ども理解に努め、保護者と真摯に向き合える職員集団。
- 3 「地域が、自慢に思える学校」となるために
 - ◎（１）学校通信やHPなどで子どもや学校の活動を情報発信する。
 - （２）地域の行事等を通して伊丹小学校の伝統を受け継ぐ。
 - ◎（３）学校運営協議会を充実させ、「地域とともにある学校」をめざし、保護者や地域との連携を推進する。

4 「教職員が、仕事にやりがいと誇りが持てる学校」となるために

◎（１）学校教育目標の具現化。

- ①自分を大切にし、自分に自信を持てる自尊感情を培う。
 - ・子どもの気持ちを受けとめ、共感的理解に基づいた指導を進める。
 - ・子どもの小さな変化も見逃さず、我が子同様「良いことは良い。ならぬことはならぬものです。」の厳しくも温かい言葉がけを行う。
 - ・体験活動や道徳教育の充実を図る。
- ②これからの時代を生き抜いていくために必要な資質・能力を身につける。
 - ・生きて働く「知識・技能」の習得を図るとともに、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を育成する活動を重視する。
 - ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を涵養するために、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の実現を目指す授業づくりを展開する。
- ③健康・安全に留意し、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体力向上に努める。
 - ・継続して運動したいと思う指導法をさらに工夫し、授業改善に努めるとともに、体力向上プランを推進する。
 - ・学校保健・健康教育・食育の充実を図り、健康に対する正しい知識と望ましい生活習慣を身に付ける。
- ④家庭や地域社会との連携を深め、豊かな心と実践的な態度を育てる。
 - ・やるソウカードを効果的に活用し、「学習、生活・お手伝い、読書、食」の基本的な生活習慣を確立する。
 - ・「あいさつ・見守り運動」などを通して子どもの安心安全の確立を図るとともに、地域行事への参加などを通して、地域に関心を持つ子どもを育てる。
- ⑤地域とともにある学校づくりを推進する。
 - ・学校評価の実施やアンケート結果の公開などにより、積極的な情報収集と情報発信に努め、地域に開かれ信頼される学校づくりを推進する。
 - ・学校運営協議会の充実を図り、保護者や地域の声を反映した地域とともにある学校づくりを推進する。
 - ・スマイルスタッフや各種ボランティア活動など、地域の教育力を生かした教育環境の拡充を図る。

◎（２）全職員が参画する学校運営。

- ①報告・連絡・相談を徹底することで、職員間の情報共有を図り、全職員が同一方向で教育活動に取り組む。
- ②学年と特別支援学級が緊密に連携し、全体として子どもの育ちを図る。
- ③学級経営の充実を図るとともに、チームとして学年経営に当たる。
- ④平素から、授業力向上や配慮を要する児童の情報交換を活発に行う。
- ⑤生命を尊重し、偏見や差別を許さない子どもを育てる教育活動を展開する。
- ⑥学校評価に基づいた学校運営を一層推進し、教育課程の編成をはじめ、学校教育活動の改善を図る。
- ⑦特別な支援を要する子どもの良さや可能性を伸ばす教育課程の編成を推進するとともに、授業のユニバーサルデザイン化を図る。
- ⑧危機管理能力を高め、事故の未然防止に努めるとともに、不測の事態への協働体制を構築し、迅速的確な対応を図る。
- ⑨誠実な姿勢で保護者や地域にかかわり、スピード感をもって対応する。
- ⑩幼稚園や中学校、関係機関・団体と連携し、子ども理解に努める。
- ⑪子どもと向き合う時間を確保し、健康で元気に勤めるために「勤務時間」を意識した働き方を進める。